

内容一致問題の解き方

★難関大ほど配点ウェイトが高いので注意！

内容一致問題の出題形式



要確認

- (1) ○×タイプ
「正しい(間違っている)ものを○個選べ」「正しいものにF、間違っているものにFをマークせよ」
- (2) Q&Aタイプ ※選択肢は読む必要なし！
「リード文」が与えられその続きを選ぶ。または英語の問いに対する正しい答えを選ぶ形式
日本語→読むだけ(問題形式の確認)
英語→読んでキーワードにマークし、それを意識して本文を読む

ステップ1 本文を読む前に…

リード文中の名詞・動詞・接続詞・前置詞・時や場所を表す語に注意！

- ①設問(選択肢)の数と、本文の段落の数をチェックする。
- ②リード文や問いの内容を見て、「何が問われているか」をチェックする。
英語の選択肢までチェックする必要はない。誤りの選択肢を見てしまい間違っただけの内容が頭にインプットされるのは困る。ただし、日本語が選択肢の場合は、本文の主題を推測したり、本文中の未知の単語のヒントになるので読む。
 - 1. おおまかな本文情報の入手が可能
 - 2. 未知の語句の類推が可能
 - 3. 本文中の対応箇所のサーチングが容易に
- ③本文や設問の中で、キーワード(印象に残る重要な名詞句・動詞句)、特徴的な語句(名詞・動詞・固有名詞・数詞など)にマークしておく。

- 本文表現をそのまま選択肢にしたもの
- 本文表現を別の同義表現で書き換えたもの
- 本文の数文の表現をまとめて表したもの
- 本文には直接書いてないが、本文から推論できるもの

ステップ2 設問との対応箇所を本文中に探す

設問(選択肢)と本文とは順番が一致している。1つの段落を読んだら、その段階で解ける問題は全て解いてしまう。
本文→選択肢→本文→選択肢…の順で
該当箇所には下線、○印などで痕跡を残す→どこを根拠にして正解判断をしたかが分かるように

ステップ3 正しい選択肢を選ぶ

＜内容一致問題の正解を探す作業＞
＝本文の対応箇所の同表現の言い換えを探す作業

《チェックポイント》 ①S(主語)は正しいか ②V(動詞)は正しいか ③その他(数値・否定・比較・因果関係・比喩など)

原文典拠の法則

選択肢を判断する根拠は全て本文に求める ～必ず答えは本文中に存在する！

要確認

→必ず選択肢と本文該当箇所を比較せよ！(その際選択肢に用いられている語句はそのままではなく似た表現に置き換えられているので注意が必要)

設問を逆手にとって該当箇所を発見だ！

対応箇所を探す
質問の関連箇所

見つける → 合致するかどうか検討する →
設問部分に対する該当箇所の発見に一番の手がかりは「名詞」

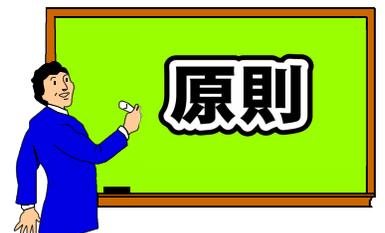
- 合致する → ○
- 合致しない → ×
本文中の対応する箇所と矛盾するもの

見つかからない → × 本文中に記述のないもの
※書いてないことはアウトです

●本文を探す注目ポイントは「キーワード」！
名詞と動詞
固有名詞・年号・数詞

《原則》

1. 内容一致問題はパラグラフの順番に並べられていることが多い
2. 消去法は重要な手段
×の方を積極的に選ぶ方が功を奏する場合がある
3. 本文の同じ対応文から2つの選択肢をセットで作成している場合、どちらかが○でどちらかが×



- 直接的な「言い換え」 → ○
- 記述内容の意図的改変(スリ替え) → ×
- 本文に言及・記述なし → ×

こんな点に注目するのだ！

- ①パラグラフのテーマに注意
- ②指示語の指示内容に注意
- ③否定表現に注意
- ④因果関係の逆転に注意
- ⑤時制に注意
- ⑥数量・比較・倍数表現に注意
- ⑦構文・イディオムの「言い換え」に注意
- ⑧多義語・意外な意味の単語に注意



○ (正解) の選択肢 …… 本文の内容に一致する

本文該当箇所「言い換え」!
(カモフラージュ)

- (1) 本文の一部を、(ほぼ) そのまま書き抜いたもの → 最も簡単な選択肢 《易》
- (2) 本文の一部を、語句レベルで言い換えたもの → 同じ内容を表す別の語句に言い換えた選択肢。語彙力が問われる。
- (3) 本文の一部を、文構造のレベルで言い換えたもの 《部分照合型》 → 文法的な書き換えを行った選択肢。
- (4) 本文を抽象化・具体化したもの 《部分照合型》 → 本文で挙げた具体例を抽象的な表現にまとめたり、本文の抽象的・比喩的な表現を具体的に説明したりする選択肢
- (5) 本文の内容から論理的に考えられる帰結を示したもの《全体照合型》 → 本文の内容が正しいとすれば、必然的にこのように言えるはずという選択肢。《最も難》

△ の選択肢 …… 本文中に記述がない、または本文の内容だけでは判断材料が不足している

× (不正解) の選択肢 …… 本文と内容が一致しない 本文該当箇所「すり替え」!

🔍 巧妙なすり替えのパターン10 🔍

- (1) **人物のすり替え**
「...と私は言った」 → 「先生は...と行った」(主語のすり替え)
- (2) **肯定・否定の逆転**
「常識は役立つ」 → 「常識を使うことはできない」 「良い」 → 「悪い」
- (3) **時間・場所・頻度の副詞要素のすり替え**
「そこに行く前に」 → 「そこにいる時に」 「時々...」 → 「いつも...」
- (4) **数量表現・数量のすり替え**
「ほとんど知らない」 → 「よく知っている」
- (5) **因果関係のすり替え**
「AゆえにBである」 → 「AなのはBだからだ」「CゆえにBである」
- (6) **条件関係のすり替え**
「XならばYである」 → 「XであるのはYの場合である」
- (7) **過度の一般化と過度の限定**
極端な単語、強い限定語句を付加して誤りの選択肢を作る



こういう極端な語を含む選択肢は誤り×であることがほとんど!
《極端の法則》

「極端」キーワード 要確認

- ① 「100%系」・・・ all, every, any, always
- ② 「0%系」・・・ no, never, none, not...any
- ③ 「限定系」・・・ only, just, merely, simply, alone

- (8) **事実と比喻のすり替え 主観的表現**
事実を「~のようである」とすり替える 事実は本文と一致するが、主観的な評価を入れてしまっている選択肢
「~する人が多い」 → 「~する人が多いのは残念だ」「多くの人が~するべきだ」
- (9) **前半○後半×のパターン**
正しい前半部に誤った描写を付加して間違いの記述を作る
- (10) **故意の取り違え**
本文中のある語句の意味をわざと取り違えて選択肢を作る 意外な意味を持つ単語をチェックしておく
(例) company 「仲間」 → 「会社」 fine 「罰金」 → 「立派な」

● 知っておくとよいこと **気をつけて読みたい...**

:(コロン)の働き 前の説明、例示

- ①直前部分の言い換え → 「つまり」「すなわち」
- ②直前部分の具体例 → 「たとえば」

—(ダッシュ)の働き

- ①言い直し → 「つまり」「すなわち」
- ②付け足し
- ③語句の補足説明

:(セミコロン)の働き 前の理由・対比 **重要**

- ① and の代用 → 「そして」
- ② or の代用 → 「または」「つまり」
- ③ but の代用 → 「しかし」
- ④ so の代用 → 「だから」
- ⑤ for の代用 → 「というのは」「なぜならば」

"(引用符)の働き 筆者の疑い
「いわゆる、世間で言うところの」(私はそうは思わないが...)